

## カンサス：小麦作柄と気象状況

2005年7月19日

### 2005年7月17日現在：

7月17日に終わる1週間の気象は高温・乾燥であった。1週間の州平均農作業稼働日数は6.6日(前週:5.6日)であり、収穫作業は進展し全州にて完了した。高温・乾燥気象であった為、土壌水分は減少した。2006年産冬小麦の播種の為に降雨が望まれた。

今期は、冬季の気象が例年より穏やかであったことで Winter Kill の発生が少なかった。春先からの生育期(分蘖期)の降雨が十分あったが多少温度が低かった為に生育が遅れが発生した。5月中の出穂から登熟初期の気候は、適度の降雨と穏やかな気温であった。6月1日単位収量は40.0ブッシェルが予想されたが、一部に黄さび病の発生などあり7月1日の予想では39.0ブッシェルに落ちた。品質的には、登熟期の降雨と温度が平年以下であったこと、完熟期になり高温が訪れたことで、容積重が高く、蛋白質も平年以上、被害粒の少ない小麦が期待された。

品質概況：カンサス州農業統計局及び Kansas Grain Inspection Service Inc. の7月14日発表による品質概況(56郡の4,854貨車ロットサンプル)の分析結果では、平均容積重：60.8 lbs/bu、平均蛋白質(水分12.0%ベース)：12.3%、平均水分：11.2%(昨年並びに10年平均：11.6%)であった。昨年産の平均容積重は59.7 lbs/bu、1994年～2003年の10年平均は60.3 lbs/buであった。昨年産の平均蛋白質は12.8%、10年平均は12.1%であった。今期の容積重は昨年、10年平均より高く、蛋白質含有量は昨年より低いが10年平均以上であった。US No. 1 に格付けされたサンプルは75%であり、昨年の51%より良い結果であった。No. 2 に格付けられたサンプルは24%(昨年は36%がNo. 2)、No. 3以下の等級の小麦は1%以下であった。被害粒計は平均0.2%であった(昨年：0.7%、10年平均：0.2%)。上記の他に自主的に提出のあった2,350サンプルの分析結果では、平均容積重は60.7 lbs/bu、蛋白質は12.5%、水分は11.5%であった。US No. 1 に格付けされたサンプルは全体の40%、No. 2 が54%であった。品質は昨年より良好と言える。

### 生産量予想：

7月1日付け USDA 冬小麦の生産予想では、単位収量は39.0 bu/ac となり、6月1日予想より1.0 bushels の減少となったが、昨年実績(37.0 bu/ac)より良い結果であった。6月の完熟期の天候不順、低温がマイナス要因と思われるが、品質的には高容積重が期待される。詳細は別表の通り。

土壌水分状況：2005年7月17日現在

Topsoil

	NW	WC	SW	NC	C	SC	NE	EC	SE	State	Week	Year
Very Short (%)	1	10	14	7	5	2	4	0	0	4	3	1
Short (%)	25	54	48	58	43	22	50	58	33	45	24	15
Adequate (%)	74	36	38	356	51	72	46	42	67	50	71	77
Surplus (%)	0	0	0	0	1	4	0	0	0	1	2	7

Subsoil

Very Short (%)	1	14	10	7	5	7	4	0	0	5	6	8
Short (%)	50	53	51	46	31	16	34	28	6	32	24	27
Adequate (%)	49	33	39	47	61	74	62	72	94	62	69	63
Surplus (%)	0	0	0	0	3	3	0	0	0	1	1	2

Week means Last Week, Year means Last year.

小麦生育状況：7月17日現在の収穫状況

	NW	WC	SW	NC	C	SC	NE	EC	SE	State	Week	Year	Ave.
This week (%)	100	100	100	100	100	100	100	99	100	100	98	98	100
Last week (%)	90	97	100	98	100	100	99	96	100	98	90	93	98

Week means Last Week, Year means Last Year, and Ave means 5-year Average.

Source : Kansas Agricultural Statistics Service

7月1日付けUSDA発表の冬小麦の生産量予想：

State	Harvested Area 1,000 acres		Yield Bushels/acre			Production 1,000 bushels	
	2004	2005	2004	2005		2004	2005
				June 1	July 1		
KS	8,500	9,600	37.0	40.0	39.0	314,500	374,400
USA	34,462	34,271	43.5	44.1	44.5	1,499,434	1,525,302

該作柄レポートに関するご質問等は下記までにお問い合わせ致します。

小川正晃 : Email [ogawa.max@omicnet.com](mailto:ogawa.max@omicnet.com)